日中
おかやま
題字故原田 親
No. 593
2010/1/5
日中友好新聞
発行所
日本中国友好協会
〒113-0033 東京都千代田区
西神田3-4-1 東方学会ビル3階
日中友好協会
岡山支部
〒703-8256
岡山市浜3-8-30 514
TEL(086)272-3010
郵便振替口座
01250-0-3835
日中友好協会
倉敷支部
〒712-8014
倉敷市連島中央4-8-4
(宮地方)
TEL・FAX(086)446-2711

新年あけましておめでとうございます

あけましておめでとうございます。

昨年、夏の総選挙で民主党中心の新政権が誕生しました。国民要求を反映した前向きの可能性も存在しますが、「対米従属」「大企業・財界の横暴な支配」から抜け出す方向はきまっていません。国民の生活と権利を守るたたかいは、益々重要となるでしょう。

私は、9年前、同時多発テロの直後に社保協主催の北欧の旅に参加しました。米国による報復戦争が始まり、主要な空港は厳戒体制が敷かれていました。

ルフトハンザ機の入り口でガーディアン紙をつまみ上げ着席しました。一面トップの見出しに「英国訛のアメリカ人」とブレアのことを皮肉っていたのです。

それ以来、私の頭の中には、「ブレアはアメリカべったりのつまらぬ男」というレッテルが貼られました。

ところが、昨年6月、伊勢田堯先生(代々木病院・精神科医)の講演でガーンとビンタをくらったような衝撃を受けました。ブレアは、1997年に政権につき、1998年には「必要な国民に必要とされる最高の医療を届ける」というビジョンを発表。

2000年には、「5年間で医療費(予算)を1.5倍にする。医学部定員を40%増にする」などの医療政策を発表し、実現してきた、というのです。

サッチャーにズタズタにされた医療を立て直しました。とりわけ、精神医療では目覚しい発展を遂げているという報告を聞きました。

今、多くの医療関係者が英国に視察・勉強に行っている、と聞きました。小沢さんや菅さんも議会制度を視察に行ったらしいが、医療・社会保障の勉強に行くべきでしょう。

軍事外交面は別にして、内政面では小泉とは全く違っていたということになります。

今年は、日中友好協会創立60周年になります。

レッテルを貼らずに、多くの人びとに入会の声かけをしましょう。

2010年元旦

日中友好協会岡山支部支部長　宇野武夫

頌春　2010

わが協会創立60周年になった。昨年は上海の内山完造夫妻の墓に詣でた。夫妻の志を大切にしたい。

今年は日韓併合100周年でもある。わが協会創立とは40年の差がある。その意味をかみしめ、まあぼちぼちやりましょう。

2010年元旦

日中友好協会倉敷支部
支部長　大森久雄

日中友好協会・岡山支部・倉敷支部
望年会で・今年を締める

09年12月12日(土)、岡山県民主会館で2009年度日中岡山支部、「望年会」が行われ、帰国者や日本語教室などの関係者を含む25名が参加しました。

宇野武夫支部長が開会あいさつ。そして帰国者を代表して高杉・残留孤児訴訟原告団長が日本語で裁判を通じて新たな連帯の輪が広がり色んな方々との出会いが今の自分達の生活を支える大きな原動力となっている。みなさんに心から感謝しています」とお礼の言葉が述べられました。

その後は歓談しながら、ハーモニカ演奏や一分間スピーチなどで交流、名前にふさわしい望年会となりました。

この会に参加して感じたことは支援してきた日中を始めとする多くの団体が連帯することの大切さとやっぱり「人間の心は心でしか動かない」このことを実感した会でした。そしてなんと言っても司会の二人の仕切りも見事でした。

田中金一

倉敷支部は12月8日、市内のあぶと天瀬店で会食をし、今年を締めくくった。岡山支部から竹内、小林さんも参加され、全17人。

大森支部長が来年はわが協会創立60周年になる、がんばらず着実にやりましょうとあいさつ。大本理事の司会で全員が発言し交流した。

栗本理事長の文化講演の主題、現代中国の見方が話題の中心になった。抗日運動史中国革命の理念、社会主義論、中国共産党論など多彩な意見が交わされた。

浅口、笠岡、井原での支部結成の決意、来秋の中国旅行計画等も出され、いっそうがんばろうとの声が大きかった。

大森久雄

味の世界めぐり PART3

日本語教室・地域の人々と交流

中央　篠原玲子さん

11月30日、福祉交流プラザさいでんで「味の世界めぐりPART3」が開かれました。

今回のメニューは「なすとピーマンの炒め物・じゃがいもと人参、ピーマンのあえもの」で、篠原玲子さん(中国帰国者で長岡に在住)を講師に、日本語教室の先生、生徒と地域の人々、プラザの職員など17人が参加しました。

篠原さんは、一生懸命練習した日本語でレシピの説明をし、調理室では、笑顔を絶やさず手際よく料理を作りました。

出来たての、なすとピーマンの炒め物と炊きたての白いご飯はよく会い、図書室でおいしく頂きました。

小林

日中友好協会岡山支部ホームページ
http//rizhong.web.infoseek.co.jp
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp

岡山県華僑華人総会報告

岡山県華僑華人総会の岡山祝賀会

林　潤

十一月二十三日に、岡山国際交流センターで中華人民共和国成立六十周年、岡山県華僑華人総会設立三十周年の岡山祝賀会が開かれました。様々な分野から百二十名ほどの参加者がありました。日中からは、岡山支部の竹内理事長、小林事務局長、倉敷支部から大森支部長が参加しました。

式辞や挨拶が済み、乾杯の音頭の後、参加者は舞台での歌や踊りを楽しみながら懇談しました。

二胡や馬頭琴の演奏では中国の歌曲だけでなく「上を向いて歩こう」などおなじみの曲もあり、親しみを持って聞くことができました。舞踊では子ども達が旗を持って行進したり踊ったりしていました。（写真）

閉会挨拶で劉勝徳会長が、「中国の青年を日本に呼んでくるのはいいが、無責任な呼び方はしないでほしい。きちんと仕事に就けるようにして欲しい。」と述べていました。議会や経済界から人が集まった機会に言いたかったことなのでしょう。

外国人を安い労働力として扱っていると働く人全体に対して、待遇引き下げの圧力になります。国際交流のためにも雇用問題としても問題提起を感じた会でした。

北京へ　11

坪井あき子

食事のとき、テーブルに着くやいなや、日本の感覚で「お水くださーい」と大声を出すおばさん。

中国では水道水を飲めないからミネラルウォーターは有料、熱いお茶が無料でサービスされる。

日程表に『夕食はレストランで刀削麺をご賞味ください』と書いてあるのに、少し離れたところでめんを削っているコックさんを見て「大根を削っているんですなあ」と話しかけてくる隣席のおじさん。はじめての中国旅行ということになれば仕方のないことだろう。

参加者のみなさんは、集合時刻をきちんと守り、バスの席もそれぞれ自由に座って、30名が一度も不愉快な思いをすることなく集団行動ができた。本当に善良で素朴な人たちだった、と思う。ただ善良さはときに『不利益』をもたらす。

日本でいつまでたっても「ぶり込めサギ」が絶えないように。ガイドのうまい話に「また、作り話を！」と皮肉りたくなる私などガイドからみたら扱いにくい「異端者」だっただろう。

つづく

小林軍治のフランス滞在記（9）

サン・トロペ、アヴィニョン

八月七日は、一九六〇年代の銀幕の女王B・B（ブリジット・バルドー）が、裸足で歩いた港町として有名なサン・トロペを観光しました。ここでの一番の驚きは、数人の使用人が朝から出航の準備にかかっている、まるでホテル数室分広さがある豪華クルーザーを目にしたときです。おそらくこのクルーザーで沖に出て昼間は、泳いだり、釣りをし、夜は、一流の料理人が作った美味しい食事をしながらパーティーを開いて楽しむ、大金持ちのバカンス用だと思われる。金でバカンスの過ごし方もかわるのか？

サン・ベネゼ橋で小林夫妻

八月八日は、コブランを後にして、リヨンに向けて出発し、途中アヴィニョン（Avignon）を見学しました。アヴィニョンは、全長4．3kmの城壁に囲まれた町で、十四世紀初頭の一三〇九年に、ローマ法王庁が移されました。その後一三七七年まで、この地は、カトリック世界の中心となりました。

ここで忘れられないのは、ローヌ川にかかるサン・ベネゼ橋（アヴィニョン橋の名で親しまれている）を、わが妻と一緒にゆったりと歩きながら振り向いて、夕映えに浮かぶノートルダム・デ・ドン大聖堂と巨大な要塞のような法王庁宮殿を眺めたときです。中世にタイムスリップした、荘厳なまでの美しさは、心に深く刻まれました。

南フランスの八日間で、カンヌで数人の日本人を見かけましたが、服装（帽子をかぶり、首にマフラー、腕に日よけをした女性）でそれとすぐわかる日本人の団体客に出会ったのは、アヴィニョンが始めてでした。

フランスと日中国交回復運動

日中新聞にフランスの観光案内のような記事を連載するとは、何事かと叱られそうなので、今号では、フランスと中国の関連について、少しふれてみたい。

私は、今回のフランス行きに、不破哲三著『マルクスは生きている』（平凡社）、蓮池透著『拉致―左右の垣根を越えた闘い』（かもがわ出版）と日本中国友好協会発行のパンフレット『文化大革命』および干渉問題と日中友好運動』を持参しました。

このパンフレットは、一九九七年四月一日発行で、十のQ&A方式で書かれています。その中にフランスという言葉が一ヶ所でてきます。それは、Q2の「『文革』が起きる前はどういう日中友好運動を進めてきたのですか。」に対する回答のなかです。抜粋して紹介します。

「日中国交回復運動にも早くからとりくみました。一九六四年、フランスが中国と国交回復したことをきっかけとして、日中国交回復運動はいちだんと高まり、同年2月には、各界代表25氏が『よびかけ人』となり、日中国交回復実現を政府に要求する3千万署名運動を大々的に提唱しました。」

この当時のフランス大統領ド・ゴールは、フランス第一主義を掲げ、後に「ド・ゴール主義」と呼ばれる独自の政策を推進していました。

当時の西欧諸国や日本は、一九四九年に成立した中華人民共和国（中国）に対して、アメリカに追随し「中国封じ込め政策」に荷担していました。

この時代に、ド・ゴールは、アメリカとのあいだに一定の間隔をおき独自性を主張する外交政策を展開しました。その具体的な現れの一つが、中国との早い国交回復です。

ちなみに日本は、八年後の一九七二年十月の田中内閣の時です。これとて、二月にアメリカのニクソン大統領が電撃的に中国を訪問し、国交回復した後です。

娘の話しによると、今日、フランスでも中国のことが、週刊誌やテレビなどのマスコミでよく取り上げられているようです。

サン・トロペのヨットハーバー

次回の新聞発送作業は
1月11日（金）午後1時半～
民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方です。

稲葉　和袈
小林　内井
竹内　垣
竹井　
坪井　三